

1 反応なし

大声で叫び応援を呼ぶ
119番通報・AED依頼

2 呼吸をみる

普段どおりの
呼吸あり

気道確保
応援・救急隊を待つ
回復体位を考慮する

3 呼吸なし*

*死戦期呼吸は心停止として扱う

4

CPR

- ・ただちに胸骨圧迫を開始する
強く（成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3）
速く（少なくとも100回/分）
絶え間なく（中断を最小にする）
- ・人工呼吸ができる場合は30：2で胸骨圧迫に人工呼吸を加える
人工呼吸ができないか、ためられる場合は胸骨圧迫のみを行う

5 AED装着

6 ECG解析
電気ショックは必要か？

必要あり

7

ショック1回
ショック後ただちに
胸骨圧迫からCPRを
再開**

必要なし

8

ただちに胸骨圧迫から
CPRを再開**

** 強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある
仕草が認められるまでCPRを続ける

倒れている人をみたら

心肺蘇生の手順

JRC(日本版)ガイドライン2010の公表を受け、東京消防庁では、平成24年1月1日から、新しいガイドラインに基づく応急手当の講習を開始しました。

1. 肩をたたきながら声をかける



2. 反応がなかったら、大声で助けを求め、

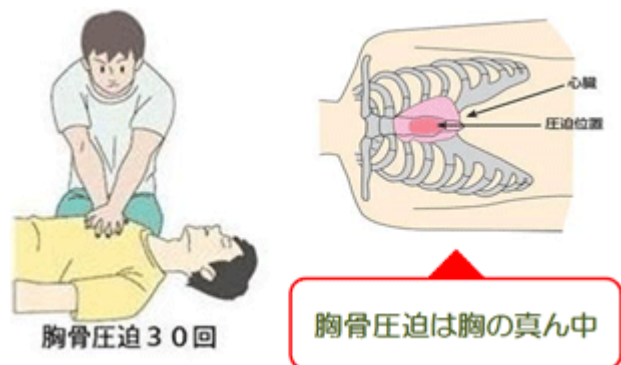
119番通報とAED搬送を依頼



3. 呼吸を確認する



4. 普段どおりの呼吸がなかったら、すぐに胸骨圧迫を30回行う



5. 胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行う

約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を、2回吹き込みます。



- 口対口の人工呼吸がためられる場合
- 一方向弁付人工呼吸用具がない場合
- 血液や嘔吐物などにより感染危険がある場合

人工呼吸を行わず、胸骨圧迫続けます。

人工呼吸用マウスピース等を使用しなくても

感染危険は極めて低いといわれていますが、感染防止の観点から、人工呼吸用マウスピース等を使用したほうがより安全です。

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います。

6 AEDが到着したら

まず、電源を入れる。



ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。

7 電極パッドを胸に貼る



電極パッドを貼る位置は電極パッドに書かれた絵のとおり、皮膚にしっかりと貼ります。体が汗などで濡れていたら、タオル等で拭き取ってください。

※おおよそ6歳ぐらいまでは、小児用電極パッドを貼ります。小児用の電極パッドがなければ、成人用の電極パッドを代用します。

8 電気ショックの必要性は、AEDが判断する。



心電図解析中は、傷病者に触れてはいけません。

9 ショックボタンを押す

誰も傷病者に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します。



ショックボタン



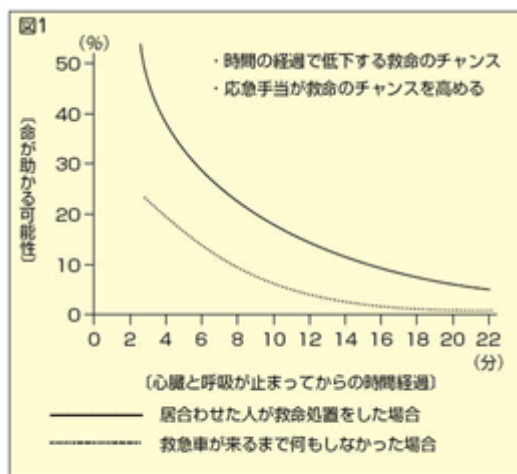
以後は、AEDの音声メッセージに従います。

心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や目的のあるしぐさ(例えば、嫌がるなどの体動)が出現したり、普段通りの呼吸が出現するまで続けます。

新しいガイドラインに基づき改正されたのは下の表のとおりです。
平成24年1月1日改正

	改正前	改正後
倒れている人を発見	反応がなければ 近くの人に119番通報とAED搬送を依頼し、 気道確保をしてから呼吸の確認 (見て、聞いて、感じて)	反応がなければ 近くの人に119番通報とAED搬送を依頼し、 気道確保をせずに呼吸の確認 (胸と腹部の動きを見る)
心肺蘇生	普段通りの呼吸がなければ 人工呼吸2回	普段通りの呼吸がなければ、 胸骨圧迫30回
	人工呼吸が終わったら 胸骨圧迫 (その後は、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行う)	胸骨圧迫が終わったら、 気道確保と人工呼吸2回 (その後は、胸骨圧迫と人工呼吸2回を繰り返して行う)
AED到着	AEDの小児用電極パッドを貼る対象は、 1歳以上8歳未満 乳児に対してAEDを使用しない	AEDの小児用電極パッドを貼る対象は、 おおよそ6歳ぐらいまで 乳児に対してAEDを使用できる

救命の可能性と時間経過



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

救命の可能性は時間とともに低下しますが、救急車が到着するまでの間、居合わせた人が応急手当を行うことにより、救命の可能性が高くなります。

心肺蘇生のまとめ

胸骨圧迫	位置	胸骨の下半分 (目安は胸の真ん中)
	方法	両手(体型によっては片手)
	深さ	少なくとも5cm (深さは体格に合わせる。目安は小児は胸の3分の1、小学校高学年ぐらいの体格なら5cm)
	テンポ	少なくとも100回/分
人工呼吸	量	胸の上がりが見える程度
	時間	約1秒
	回数	2回

胸骨圧迫と人工呼吸の
組み合わせは30:2